

〔8番 井端浩二 登壇〕

○8番（井端浩二）

皆さんおはようございます。議長にお許しをいただきましたので、質問をさせていただきます。今、スウェーデン戦を見ていまして、引き分けたということで、多分決勝トーナメントに行きます。喜んで応援をしたいと思います。それでは始めさせていただきます。私は大きく2つに分けて質問させていただきます。

まず1つ目の質問です。外国人労働者の支援についてということで、3つ質問させていただきます。岐阜労働局のデータによると、2025年末で外国人雇用状況は8.7%増の約4万8,000人です。国別では、これまで多かった中国に代わって20代の東南アジア出身者が増えているようです。飛騨市においても人材不足の中、外国人雇用は増えているのではないかと考えられます。そこで、次の質問をさせていただきます。

1、現在での飛騨市の外国人労働者数と今後の展望は。飛騨市においても人材不足の中、外国人を雇う企業や事業所が増えているのではないかと考えられます。そこで、飛騨市で働いてる外国人の人数と雇う事業者の数、そしてどんな業種があるのか確認をさせていただきたいと思います。また、今後も介護施設等で必要になると考えられるが、市としては今後どのような支援が必要になるのか、市の考えを伺います。

2つ目、日本語教室や生活マナー等の勉強会の開催について。外国人雇用に関する受入れ相談や必要な手続き、日本語教室や生活マナー講習など雇用に必要な流れを北日本国際事業協同組合の御協力をいただき、現在に至っております。その後も年に1回の外国人や雇い先の交流があり、諸問題について対応しているようでございます。また、今年4月から施行された自転車青切符制度についても、警察の御協力をいただき、月1回程度の説明会を開催する予定であります。大変ありがたいことでございます。日本語教室は事前に学んでいても、それで十分かなということ、また、生活マナーやごみの分別等は地域での違いがあり大変不安であります。今年の冬に外国人が大雪が降りしきる中、自転車に乗って車道を走っているのを見まして、大変危険に感じました。そういったことについても注意が必要ではないかと思ひます。今後、そのような勉強会を必要に感じますが、その予定はあるのか伺いたいと思ひます。

3つ目、外国人労働者の社宅について。雇用されてる企業のお話を聞くと、今後も外国人の雇用を増やしていきたいというお考えはお持ちであります。しかし、社宅について苦慮していると聞いています。現在は、アパートや一部の空き家を利用して2～3人で使用しているようですが、近所の配慮も必要であると思ひますが、空き家をうまく利用することはできないか、市の考えをお伺いさせていただきます。以上、3点よろしくお願ひいたします。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

（「議長」との声あり） ※以下、この「議長」と呼ぶ声の表記は省略する。

◎議長（澤史朗）

森田理事兼商工観光部長。 ※以下、この議長の発言者指名の表記は省略する。

〔理事兼商工観光部長 森田雄一郎 登壇〕

□企画部長（森田雄一郎）

おはようございます。外国人労働者の支援について3点御質問いただいております。順次お答えをいたします。

まず1点目の御質問につきまして、令和8年5月31日時点の市内の外国人は356人です。このうち、就業等を目的とする在留資格において、229人の方が市内で働いていると考えられます。企業数につきましては、正確な数字は市で把握しておりませんが、補助金の申請状況や景気動向調査の回答から33社以上存在するものと思われ、製造業、土木建設業を中心といたしまして、介護やサービス業に至るまで、多様な人材が幅広く御活躍いただいております。今後の支援につきましては、来年度より新たに育成就労制度が開始されることから、外国人材採用事業所交流会等で市内事業者及び外国人受入れを担当する監理団体の意見をヒアリングした上で、新制度開始に伴い適切な支援を行ってまいります。

2点目の日本語教室や生活マナー等の勉強会についてお答えいたします。市内で多数存在する外国人技能実習生につきましては、母国で送り出し機関による教育を受け、次に日本入国後、日本語講習やマナーについて監理団体で学習し、その後に各企業へ配属される流れとなっております。各企業配属までに学習する日本語の授業時間は320時間前後と考えられます。配属後も監理団体では技能実習生の定期相談に当たっていることは、議員御指摘のとおりでございます。

商工課では、過去に日本語教室を開催したところ、問題点が4点あると認識をしております。1点目といたしまして、業種が多様であり、勤務時間の違いから一律の日本語授業が難しい点。2点目に、飛騨市が面積の広い自治体であることから、移動が難しいという点。3点目に、在留資格で求められる日本語能力が異なることから、学習者の習得状況が個々人で異なる点。最後に、試験勉強に必要となる日本語学習なのか、生活に必要な日本語を学びたいのかで、授業内容が異なる点です。

こうした課題を踏まえますと、一律に日本語教室を開催するのではなく、事業所内で実施する日本語授業等への支援が効果的であると考えます。飛騨市外国人技能実習生等支援事業補助金では、日本語の授業のほか、専門的な通訳派遣における企業の費用負担について補助しております。また、ベトナム語、インドネシア語については、飛騨市独自の制度として外国人技能実習生等業務支援員を配置しており、過去に土木建設業でそのような業務に必要となる専門的な用語について翻訳、通訳を実施するため、相談員を派遣する等、細やかな対応が可能な体制を構築しております。

次に、飛騨市内の事情に起因するマナー講習につきましては、市内事業者から要望があり、過去にごみの分別方法、油の捨て方、バスの乗車方法について外国人労働者交流会の中で実施してまいりました。今後も外国人材採用事業所交流会で市内事業所から要望をヒアリングしながら実施してまいります。

3点目の外国人労働者の社宅についてお答えいたします。建築価格高騰に伴い社宅建設が厳しさを増しており、また市内において賃貸住宅の空き家物件の確保が難しい点は近年の傾向となっております。そこで市では、令和7年度から新たに飛騨市社宅整備促進事業補助金を制定し、令和7年度に2件の利用、今年度においては1件の御利用がございました。

外国人労働者の住居問題につきましては、運転免許の保有者が少なく移動手段が徒歩、自転車、

公共交通機関に限られるケースが多いことから、市内事業者からも職住近接、職場と住居の距離が近いということですが、職住近接の希望があり、空き家の利活用の促進が不可欠であることから、今後も同制度の積極的な利用を呼びかけてまいります。また、市内の事業者からは、外国人労働者に限らず雇用の確保のために従業員が居住するアパート等の不足が課題である旨を直接伺っておりまして、今年3月に開催した総合政策審議会においても、委員より御指摘を受けたところです。市としても大きな課題と認識しており、現在庁内横断的に解決策を模索しているところです。

〔理事兼商工観光部長 森田雄一郎 着席〕

○8番（井端浩二）

350人ほどいるということで、分かる範囲で結構なんですが、ベトナム、フィリピン、カンボジア等、国別の人数が分かれば教えていただきたいと思います。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

□理事兼商工観光部長（森田雄一郎）

この356人の主な内訳でございますけれども、ベトナムが111人、インドネシアが65人、カンボジアが37人、ミャンマーが28人、中国が33人というふうになっております。この中には永住者の方々も含まれておりますので、よろしくお願いいたします。

○8番（井端浩二）

この通告書を出した後に、いろいろ担当の方に確認をさせていただいたら、ちょうど6月22日に雇う企業の交流会があるということで、そこに同席をして意見を聞いてきました。そこでマナーとか日本語教室とかっていう話が出てまして、今、部長が言われましたように各国でたくさんあって、日本語についてはなかなか問題があって難しいということでしたが、日本へ来る前の勉強とか、来た後にも320時間、日本語講習をやっているということで、ごみ問題やあるいは油のことで勉強会をやるわけですが、各企業で今の支援員とかを使って勉強をするんですが、どういう感じで勉強するのでしょうか。会社にもいろいろありまして、24時間やっているところもあって交代制で働いてますので、月に1回程度なのか、どういう感じで企業のほうへ行って勉強会をしているのか、その辺を確認させていただきたいなと思います。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

□理事兼商工観光部長（森田雄一郎）

議員も御承知だと思いますけれども、監理団体という団体がありますので、そこの方々の協力の下、企業内で研修を行ったりとか、先ほども御答弁申し上げましたけれども、市側としてもその辺をサポートするために、交流会とかで出た意見に基づいてマナーの研修を行ったり、そういったことは行っております。

○8番（井端浩二）

分かりました。

あと、アパートとかあるいは空き家を利用して外国人の人たちが住んでいるということで、その近所からいろいろなクレームがあったのか。あるいは、今僕も言ったように青切符制度が4月

から施行されまして、質問で言いましたように、雪が降る中、普通だったら自転車を引いていくところに乗っていくんですね。僕は車で走っていて、やはり危険性を感じたんですね。車がすれ違うのに、渋滞まではいきませんが、運転手がみんな気を遣って大きく回っていくっていうのがありますので、そしてそういったことについての注意とかはやっていらっしゃるのか、どんなクレームがあったのか確認をさせていただきたいと思います。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

□理事兼商工観光部長（森田雄一郎）

特に現時点では、クレームっていうものは特に寄せられていないという状況でございます。過去にはいろいろあったというふうに聞いておりますけれども、現状、いろいろとマナーに関する研修とかも行われていて、その点はなくなってきたのかなというふうに考えております。

自転車の件につきましては、確かに私もそういう場面をよく見たりいたします。企業からもやっぱり自転車が交通手段の大きなところのウェイトを占めているので、その辺はちょっと危険だなという認識があったりします。警察署も非常に前向きにやってくださってますけれども、そういったところも、今後何らかの支援が必要であればやっていきたいと考えております。

○8番（井端浩二）

危険性が伴いますので、またそういった説明会とか注意のほうをしていただきたいと思いますし、警察署のほうにも確認したら、そういったことについては説明会をしていくってことを言っていたので、またそういったときにでも十分走行には気をつけてということをお願いしたいと思います。

また、交流会の話の中でも出たんですが、家族で来ていらっしゃる人が7～8人おるんですね。私たちと同じ市民でございますので、奥様が働く場所がないので紹介していただきたいという話も出てましたし、あるいは子供がいらっしゃる場所もあって、そういった面についての相談、子供たちの教育、こういった形で飛騨市として支援ができるのかということについてもその中で話が出たんです。今後のことかもしれませんが、その辺について今後どう進めていくかということをお聞かせいただきます。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

□理事兼商工観光部長（森田雄一郎）

確かに、先日の交流会でそのような御意見をいただいたということを伺っております。家族帯同者の方の28時間という制限がございますので、その中での仕事探しの仕方なので、これは神岡町の案件でございましたけれども、近々に商工団体と協議をして、今後どのようなやり方があるのかというところを模索をしていきたいと考えておりますし、なおかつ、市といたしましてその家族の帯同者の方とか、まだ特定技能を有していらっしゃる方に対する日本語教室の開催ということも今準備を進めているところでございますので、そういったサポートをしていきたいというふうに考えております。及び、お子さんがだんだん年齢が大きくなっていくということも、これはとてもいいことだと思うんですが、そこにおける保育とか教育というところは今後の1つの大きな課題かなというふうに考えておりますので、担当部局と協議をしながら適切な対

応をしていきたいなと考えております。

○8番（井端浩二）

今後の対応をぜひお願いしたいと思います。

あと、昨日、おとといの質問でも人材不足ということがいろいろ出てきていますが、これからの人材不足という中で、ある会社でも言われましたが、今後、外国人労働者を雇っていきなっていう会社もあると思うんですよ。今後雇ってみたいという会社についての説明会、まだ雇っていないけど、これから外国人労働者を考えていきなっていうような、介護施設とか土建会社もあると思うんですが、今後説明会をやったらどうかということを思ってますので、企業の説明会を開く予定はないのか、それについての考えを聞かせていただきたいと思います。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

□理事兼商工観光部長（森田雄一郎）

為替相場の関係もあったりして、なかなか日本が選ばれる地域でいつづけるというのは、それは外部環境の話ですけれども難しかったりするという点ではありますが、まだまだ日本を選んでくださる外国人の方々は多いと思いますので、そこに積極的に入ってきていただいて就業していただくことの重要性は認識をしております。飛騨市経済連合会という団体がありますけれども、その団体のセミナーの一環として、来年度から育成就労という新しい制度になりますし、そういった制度の理解も深めながら、いかに外国人材を活用していくかといったようなセミナーを年度内に開催する予定でございまして、現時点では年明けになろうかなと思いますが、そういったことを検討しております。

○8番（井端浩二）

人材不足という中でありますので、またそういった説明会とか、ただ、企業側がやることと市が応援することでは違うと思いますので、その辺のすみ分けも大事だと思いますので、そういったことを考えながら、ぜひ外国人企業ということで応援していただきたいなと思ってます。

あと、青切符制度とかで同じ外国人でも旅行者、いわゆるインバウンドですね、最近はなくなりましたけど駅前でも道の真ん中で写真を撮ってる人が多いんですね。そういった方のクレームが来ていれば教えていただきたいのと、その対応はどうしてるのかを最後に確認させていただきたいと思います。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

□理事兼商工観光部長（森田雄一郎）

ありがたいことなんですけれども、インバウンドの宿泊者数は、令和7年の観光統計においても過去最高を示しております。ヨーロッパとかアメリカとかから多くの観光客の方にお越しいただいてるんですけれども、中には民泊を活用されるといったこともございまして、クレームの件なんですけれども、正直そこまで寄せられてはいないという状況があります。たまたまレンタカーとかを御利用になられていて、民泊の宿泊先の手前、違う民家の前に駐車をされていてクレームを頂戴したことはありますけれども、正直申し上げてそこまでクレームになったようなケースは現時点ではございません。

○8番（井端浩二）

今、警察署でもレンタサイクルのショップでも説明会をして、青切符についても説明会を開いているということ。そして、この間の説明会でも、社宅あるいは空き家だと、外国人によっては歌が好きな人がおって、よく歌を歌って近所からクレームが来たということもありましたので、そういったことも含めて外国人の労働者に目配りをしていただきながら、飛騨市のために応援をしていただきたいと思いますので、ぜひよろしくお願いしたいと思います。

続きまして、2つ目の質問に入らせていただきます。自主防災組織連絡協議会について質問させていただきます。今年度の主要事業の概要の中に、自主防災組織の体制強化による地域防災力の向上という概要説明がありました。また、総務常任委員会においても、所管事務調査の中で自主防災組織についての説明を受け、自主防災組織連絡協議会準備会を今年3月に立ち上げたという報告がありました。能登半島地震から約2年半、近年各地で自然災害や山火事による延焼、6月8日にはフィリピンでマグニチュード7.8の地震が起き、甚大な被害があり、日本にも津波注意報が発令されました。また、昨日におきましては、朝、青森県で震度6強、そしてベネズエラでも震度7.5という大地震がありまして、ベネズエラなどではすごい死者が出ているようでございます。いつ災害が起きてもおかしくない状況にあり、その災害に備える必要があることは言うまでもないです。以前より、防災については数回質問をさせていただきましたが、防災士会の設立により、市民が防災に関して関心を持ち始めました。また、若い人たちや小学校、中学校の皆さんも防災について学び始めたことは、危機管理課あるいは防災士会の活動に感謝し、今後も期待していききたいと思います。同じような質問になるかもしれませんが、再度防災について質問させていただきたいと思います。

1つ目、自主防災組織連絡協議会準備会が立ち上がったが、今後の計画についてお尋ねをさせていただきます。所管事務調査の中で、今年3月に自主防災組織連絡協議会の準備会が立ち上がったという報告がありました。その準備会は、地域の組織の統括と思われますが、今後どのような動きをしていくのか、お尋ねをさせていただきます。

2つ目、各地区での自主防災組織の立ち上げについて。私たちの地域でも、役員と防災士で懇談会を開催させていただきました。組織立ち上げについて、意見交換がされました。どうやって立ち上げていくのか、あるいは契約はどうするのか、人数はと、いろいろ意見交換がされました。私も参加させていただき、誰が中心になって立ち上げていくのかという問題になり、防災委員が検討することになり、私もその一員になり、次回再度開催する予定になりました。

所管事務調査の説明でもあったように、区長たちは忙しく、自主防災組織の立ち上げを中心としてやっていくのは無理があるように感じます。以前にもあったようですが、自主防災組織の立ち上げる簡単な要綱や防災計画の見本があったほうが進めやすいように考えられます。また、以前にも申し上げましたが、各区に防災委員を立ち上げ、市として防災委員会を立ち上げ、十分説明をして区長とも相談して立ち上げるほうが早いように感じますが、市の考えを伺います。

3点目、ヘルメットの配布または貸出しについて。防災士会、または今後自主防災組織が立ち上がり、その役員は防災や災害の先頭に立って先導することになると思います。また6月14日の各区の避難訓練においても防災士の方が指導や説明を行い、訓練のリーダーとして開催されました。自主防災組織は、行政区が準備するかもしれませんが、防災士会にもヘルメットが必要にな

と思います。その考えをお伺いさせていただきます。以上、3点よろしく願いいたします。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

〔危機管理監 高見友康 登壇〕

□危機管理監（高見友康）

それでは3点御質問いただきましたので、通しでお答えいたします。

まず1点目の準備会の今後の計画についてです。議員御指摘のとおり、今年3月に準備会が立ち上がりました。今後は3か年計画の下、令和10年度に飛騨市防災委員設置条例の制定を仮の目標とし、条例に基づき任命された防災委員による本格的な活動開始を目指します。このため、令和8年度の準備会においては、各地区から選任された防災委員の能力向上と連携強化を図り、モデル地区の活動とその成果を展開します。令和9年度には、令和8年度の成果を可視化し、ノウハウを共有することにより、さらなる地域展開を図り、令和10年度には条例により制度化し、本格的な活動に移行します。令和8年度の具体的なスケジュールとしては、3月に実施した基調講演及び5月に実施した危機管理初動研修をスタートとし、6月から8月に自主防災組織の必要性への共通認識の共有と各地域の現状と課題の言語化を目標とした研修、9月から10月には他地域の先進事例を学び、居住地域での自主防災訓練を企画できる素養の付与、10月から11月にかけて防災リーダー養成講座、1月から2月にかけて自主防災組織訓練計画を立案し、令和9年度に防災訓練実施を目指して完成させるというスケジュールを計画しています。

2点目は、組織の立ち上げについてです。議員御指摘のとおり、区長の業務は広範多岐にわたり、極めて多忙であるため、新しい組織立ち上げの中心となって活動することは容易ではありません。本市が自主防災組織連絡協議会を設置する目的の1つは、まさにその区長の負担軽減にあります。あわせて、区長が毎年交代したとしても、防災士等が防災委員となって区長を補佐することで、活動の継続性を維持・向上させることも目的としています。そのため、各行政区等で選任された防災委員や防災士、防災関係者、専門家による活動の場として、本協議会を位置づけております。本協議会は、議員御指摘のように、各行政から選任された委員による市の防災委員会に類似した面はあります。しかし、高齢化や人口減少など、地域の事情により、区単独での組織化が難しい場合や、連合区単位での活動のほうが効率的な場合もあります。さらには、宮川や高原川沿いの右岸地区、左岸地区といった、広域連合での活動も想定されます。これらに加え、防災士会、防災関係者、専門家、民生委員などを交えた多様な活動を展開していくため、単なる防災委員会とは異なる組織として、自主防災組織連絡協議会と称している点について御理解をいただきたいと存じます。

また、今年度の協議会準備会の発会に至るまでには、令和5年度から検討を始め、令和6年度、令和7年度には研究会を発足させ、防災士会、専門家、有識者、区長会連合会長、連合会代表地区やモデル地区を選抜して活動・検討と対話を重ねてまいりました。

以上のように、十分な検討と対応とともに、議員御指摘の自主防災組織の構成についての説明及び地区防災計画作成要領説明会、自主防災計画のひな型の市公式ホームページへの公開や、区長会への丁寧な説明を繰り返し行ってまいりました。しかしながら、区長は毎年交代されるため、引き継ぎが必ずしも十分ではなく、一からスタートする面もあるかと思われます。今後とも引き

続き丁寧な説明に努め、御理解と御協力をいただけるよう取り組んでまいります。

3つ目、ヘルメットについてです。議員御指摘のとおり、災害時の防災活動においてヘルメットは必需品です。このため、行政区等の自主防災組織がヘルメット等を購入する場合には、自主防災組織活動支援補助金として、費用の3分の1以内で15万円を限度として補助しており、これによって各行政区において整備を進めていただいています。なお、防災士の活動に必要な防災士ベストについては、飛騨市防災士被服貸与規則に基づき貸与しています。一方で、防災士の活動は、平時には防災講話や防災教育等の普及活動、災害時には避難所運営の協力が中心であり、危険な場面での活動は想定していません。そのため、ヘルメットの必要性については、防災士会と十分な協議を踏まえて、防災士会全体の意見を集約していただいた上で市に要望いただければ飛騨市防災士被服貸与規則を改正し、貸与に向けた対応を進めたいと考えております。

〔危機管理監 高見友康 着席〕

○8番（井端浩二）

今説明を聞いてまして、市の防災委員会っていうものがあると聞いたんですが、その組織はどういう組織なのか確認をさせていただきたいなと思います。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

□危機管理監（高見友康）

現在、市には防災委員会というものは存在しません。説明の仕方が不十分のために誤解をいただいたかもしれませんが、防災士が防災委員となって区長を補佐するということは今進めているところでありまして、令和5年度の段階で防災委員というものは存在していません。そしてその当時、防災委員を選定して委員会を立ち上げようとしたけれども、各種問題があって立ち上がりず今に至った、そういう意味で説明の仕方が不十分だったかもしれませんが、現在も防災委員会というものはありません。

○8番（井端浩二）

今現在は防災委員会がないっていう話で、聞き漏らしたかもしれませんが、私たちの町内には防災委員という方がいらっしゃいます。神岡町では町内会で防災委員が必要でないかということの前回は質問の中で言わせていただきまして、民生委員とかと同じようなくくりで、防災委員会等が立ち上がって、それで勉強しながら各行政区のほうで自主防災組織のリーダーとしてできないかってことも質問で言わせていただきましたが、そういった考えはあるのか。防災委員をつくることはいいんですが、まだ各地域で選考している段階なのか、その辺について確認をさせていただきたいなと思います。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

□危機管理監（高見友康）

防災委員の選定と、今の準備会に至るまでの過程につきまして、少し長くなりますけれども順を追って御説明したほうが理解が早いと思いますので、少し説明させていただきます。

まず、令和5年の防災訓練が終わった時点で私が感じたのは、防災委員が各区に存在しないと。実態上、そのときはありませんでした。そのため、9月に次年度の役員を選定する名簿提

出があるので、その中で防災委員を入れるようにという指示を一旦私は出したんですが、あまりにもあちこちから反対意見が続出して、大きな理由は2つあります。1つは、防災委員って何やるんだと、今までない委員を設置する必要性というものを問われました。もう1つは、防災訓練が6月に終わって、9月に名簿を出すっていうのはとんでもないということで、これは継続検討ということで、令和5年度に庁内検討と区長会ヒアリングをスタートしました。そのヒアリング結果を基に、令和4年度新規事業として、防災アドバイザー制度構築研究会というのを発足しました。この事業は令和6年度、令和7年度です。

この中で、防災委員という名前がいいのか、区長を補佐するアドバイザーがいいのか、相談員がいいのか、リーダーがいいのか、議論が百出しました。このときに研究会に参加していただいたメンバーは、区でいきますと3区、8区、袈裟丸区、中野区、末高区、区長会長、副会長2名、そして岐阜大学の小山先生など有識者を含めまして、また、防災士会の役員会も加わって研究会をしたんですが、この当時、議論が百出し過ぎてとてもまとまらないということで、令和7年度にトヨタ自動車株式会社のデジタル変革推進室にとにかく何とか取りまとめてくださいという業務委託をして、令和7年度中に取りまとめをするということで研究会を継続しました。この時点で、さらに行政区として8区、24区、数河区、谷区と新規区長会長と新規副会長、区長会連合会長が参加して検討を進めまして、ようやく連絡協議会として設置。そして、各区の防災委員として、行政区の中で役員として位置づけて選任すると。このイメージが恐らく議員が描かれている市の防災委員会に近いものと思います。

しかしながら、答弁で御説明しましたように不十分でありまして、防災委員を出せない区もありますし、連合区のほう、例えば殿町とか向町、あるいは五ヶ村地区なども連合して対応しようとしています。そのほかに右岸地区、左岸地区とありましたように、災害の形態によっては区単独ではないほうがいい場合もあります。そういう意味で、どのような組織をつくっていくかというのを、この準備会で今後検討していくということを予定しております。以上が説明になります。

○8番（井端浩二）

御丁寧にどうもありがとうございます。ようやくそういったことが理解できましたので、今後この防災委員っていうのを、行政区なり、あるいはまとまった単位でいいと思いますが、そういったものが正式に立ち上がって防災委員会が主導しながらやってくのは大変重要でございまして、今後に向けても期待したいと思います。ぜひ防災委員会の立ち上げに向けて、準備会等も一緒になってやっていただきたいと思います。

ヘルメット等については、また防災士会のほうでも意見を聞いてやるってことです。必要だと思いますので、ぜひお願いをしたいと思います。

あと、防災委員が今後立ち上がっていくと、この間の避難訓練で、古川小学校に避難所を設営するにあたっては避難者カードの登録というか、持ち出しをチェックしたりということですのでぐいいんじゃないかなと思ひまして、今後避難訓練も防災士会や防災委員が主導してやっていけたらいいんじゃないかなと思ひますので、ぜひそういったことも頭に入れながら、自主防災組織を立ち上げて飛驒市の防災に向けてやっていただきたいと思います。僕も防災士会の一員でありますので、協力しながら今後進めさせていただきますので、ぜひまたよろしく御指導お願いしたいと思います。これで私の質問を終わらせていただきます。どうもありがとうございました。

〔8番 井端浩二 着席〕